

平成 25 年度(第 58 回) 全国私立中学高等学校
私学経営研修会
 【報告書】

主催 一般財団法人日本私学教育研究所
 後援 広島県・広島市・広島県私立中学高等学校協会・日本私立中学高等学校連合会

■■■■■■■■■■ 研究のねらい ■■■■■■■■■■

変革の時代を拓く私立学校
 -社会と教育の潮流を読み、私学の進路を探る-

政権交代で幕をあげた今年、安倍新政権は経済再生と教育再生に力点を置き、自由民主党選挙公約の高校無償化見直しでは、私立高等学校等就学支援金への所得制限導入等そのゆくえが注視される。折しもいじめ・体罰問題は世間の高い関心を集めており、いじめ防止対策基本法案、第二期教育振興基本計画策定、平成の学制大改革、教育委員会制度見直し、学校週6日制回帰、グローバル化時代に対応した教育、道徳教育等、国の教育再生実行会議、自民党教育再生実行本部、文部科学省審議会等で議論の進む教育制度改革の流れが教育と学校経営に与える影響は計り知れず、今後の動向から目が離せない。

私学にとっての朗報は、第7期中央教育審議会に吉田晋・日本私立中学高等学校連合会会長・日本私学教育研究所理事長が委員として参画したことで、教育現場の意見を集約し、“もの言う私学”を牽引する“行動する私学人”として、児童生徒のための活躍が期待される。高校教育見直しと大学入試改革・高校学習到達度テスト構想、私学助成減額や学校施設耐震化対応、公立高校授業料無償化や公立中高一貫教育校の余波を受ける生徒募集、経営困難校等、私学を取り巻く環境は厳しさを増す一方である。情報開示・経営健全化の観点から抜本改正される新学校法人会計基準にも、迅速な対応が欠かせない。

本年度の研修会では、児童生徒の保護者や世間の注目が国公立を問わず学校に向けられる中で加速する変革の時代に、私立学校が子ども達の未来を拓くべく、社会と教育の潮流を的確に読み取り、わか国と私学の進むべき路を模索するための報告・討議を展開する。プログラムでは、中央と地方からの最新情勢報告に加え、全国各地からの参加者が交流を深め、各学校の現状と課題を語り合い、悩みを共有することで課題解決の糸口を見いだせるよう、前回好評であったグループ討議形式での意見交換と懇談の時間を設けている。さらに世界平和の地・広島県の私立学校・教育関連施設視察を実施する。

時代の変化をいち早く察知し、社会と教育界の流れを掴み、それらを自らの教育理念・学校経営へと反映させるためにも、広島の地で最新情報や提言、私学人の豊富な経験と想いを共有することで、自らを研鑽し、研修会の成果を各学校と法人の教育活動・経営の活性化に役立てられたい。

- ◆ 会 期 平成25年6月6日(木)～6月7日(金)の2日間
- ◆ 会 場 広島県 広島市 ANA クラウンプラザホテル広島
 広島県広島市中区中町 7-20 082(241)1111
- ◆ 参加人員 163名 (募集180名)
- ◆ 参加対象 理事長、校長、副校長・教頭、事務長またはこれに準ずる管理職の方
- ◆ 日 程

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
	30	30	20 30 40 50	10 30	10	10		40 10 30	30	30	30	30
6/6 (木)	受付	開 会 式	講 演	基調講演		屋 食	報 告 中高連 私 広 島 島 学 県		コー レ イ ビ ン グ	パネル・ ディスカッション		教育懇談会
6/7 (金)	意見交換会			全 体 会 議	屋 食	A. 学校視察 《広陵高等学校、修道中学校・高等学校》						
	【分科会】 グループ討議		B. 教育関連施設等視察 《江田島市 海自第一術科学校、修道中学校・高等学校》									

- ◆ 講師・指導員 (順不同)
- 佐々木茂喜 お多福グループ株式会社・オタフクソース株式会社 代表取締役社長
- 山本 千曲 株式会社山豊 代表取締役
- 黒瀬真一郎 学校法人広島女学院 理事長
- 田原 俊典 修道中学高等学校 校長
- 吉田 晋 富士見丘中学高等学校 理事長・校長

平方 邦行 工学院大学附属中学高等学校校長
 松良 千廣 常盤木学園高等学校 理事長・校長
 須藤 勉 東京学園高等学校 副校長
 金野 眞行 帝京八王子中学高等学校 校長特別補佐
 中川 武夫 淑徳SC中等部高等部 顧問

◆ 専門委員・客員研究員・指導員（順不同）

實吉 幹夫 東京女子学園中学高等学校 理事長・校長
 鈴木 康之 水戸女子高等学校 理事長・校長
 長塚 篤夫 順天中学高等学校 校長
 木内 秀樹 東京成徳大学中学高等学校 理事長・校長
 山中 幸平 学校法人山中学園 理事長
 梅村 光久 学校法人梅村学園松阪法人本部 部長
 新田光之助 筑陽学園中学高等学校 理事長・高校長
 野原 明 文化学園大学杉並中学高等学校 特別顧問・名誉校長
 真城 義麿 大谷中学高等学校 前校長
 鈴木 秀一 一般財団法人日本私学教育研究所 事務局長

◆ 事務担当

川本 芳久 一般財団法人日本私学教育研究所 主幹
 西沢 紀子 一般財団法人日本私学教育研究所 主幹

◆ 日程・プログラム

第1日 6月6日(木)

会場：ANA クラウンプラザホテル広島3階「オーキッド」
 〈司会・講師紹介等〉鈴木 秀一 一般財団法人日本私学教育研究所 事務局長

08:30	◇ 受付
09:00	◇ 開会式 1. 開会 2. 主催者代表挨拶 吉田 晋 一般財団法人日本私学教育研究所 理事長 3. 開催県代表挨拶 黒瀬 真一郎 広島県私立中学高等学校協会 会長 4. 来賓祝辞 湯崎 英彦 広島県知事 来賓祝辞 松井 一貫 広島市長 5. 役員・専門委員紹介 6. 研修会運営方針説明 實吉 幹夫 一般財団法人日本私学教育研究所 私学経営専門委員長
09:30	◇ 講演 演題 「政権交代後の教育政策と私学情勢」 講師 吉田 晋 日本私立中学高等学校連合会 会長 一般財団法人日本私学教育研究所 理事長
10:40	◇ 基調講演 演題 「広島発全国へ」～経営指標の変遷～ 講師 佐々木 茂喜 お多福グループ株式会社・オタフクソース株式会社代表取締役社長
12:10	◇ 昼食
13:10	◇ 報告Ⅰ テーマ 「教育再生・制度改革のゆくえ - 私学の明日を展望する -」 報告者 實吉 幹夫 日本私立中学高等学校連合会 教育制度委員長 一般財団法人日本私学教育研究所 副理事長
14:00	◇ 報告Ⅱ テーマ 「広島県の私立学校の現状と課題」 報告者 山中 幸平 広島県私立中学高等学校協会 副会長
14:40	◇ 報告Ⅲ テーマ 「私学の教育課題と教員の育成 - ニーズに即応する日私教研 -」 ◇ 報告者 中川 武夫 一般財団法人日本私学教育研究所 所長
15:30	◇ パネル・ディスカッション テーマ 「変革の時代を拓く私立学校」 - 社会と教育の潮流を読み、私学の進路を探る - パネリスト 山本 千曲 株式会社山豊 代表取締役 パネリスト 田原 俊典 修道中学高等学校 校長 パネリスト 鈴木 康之 水戸女子高等学校 理事長・校長 コーディネーター 野原 明 教育ジャーナリスト・文化学園大学 名誉教授
17:30	

18:00	◇ 教育懇談会 1. 開会 2. 主催者挨拶 長塚 篤夫 一般財団法人日本私学教育研究所 教育制度専門委員長 3. 来賓挨拶 河野 行信 広島県環境県民局学事課 課長 4. 乾杯 田原 俊典 広島県私立中学高等学校協会 会長 ～懇談～ 5. 次年度開催県代表挨拶 名城 政一郎 沖縄県私立中学高等学校協会 副会長 6. 閉会
19:30	※着席形式 (6/7 意見交換会分科会グループ討議と同グループ)

第2日 6月7日(金)

会場：ANA クラウンプラザホテル広島3階「オーキッド」
〈司会・講師紹介等〉鈴木 秀一 一般財団法人日本私学教育研究所 事務局長

08:30	◇ 意見交換会 [グループ討議 (分科会) ~全体会] メインテーマ 「変革の時代を拓く私立学校」 —社会と教育の潮流を読み、私学の進路を探る— ☆総合進行役 木内 秀樹 東京成徳大学中学高等学校 理事長・校長 ☆世話役 實吉 幹夫 私学経営専門委員長 真城 義彦 教育制度客員研究員 鈴木 康之 私学経営副専門委員長 平方 邦行 工学院大学附属中学高等学校校長 長塚 篤夫 教育制度専門委員長 松良 千廣 常盤木学園高等学校理事長・校長 木内 秀樹 私学経営専門委員 須藤 勉 東京学園高等学校副校長 山中 幸平 私学経営臨時委員 金野 眞行 帝京八王子中学高等学校校長特別補佐 新田光之助 教育制度専門委員 中川 武夫 所長 野原 明 教育制度客員研究員
08:30~ 10:20	1. グループ討議 (分科会) ☆重点テーマ ①私学行政と経営 ②学校経営とリーダーシップ ③学校改革と教員の意識改革 ④生徒募集・進路対策 ⑤グローバル対応教育 ⑥学校の危機管理対応 ①～⑥の重点テーマを基にグループ編成 (各12名程度)。 各グループの世話役がキーマンとなり、各学校の課題等について参加者主体で報告討議を行う。
10:20~ 10:50	2. 全体会 ☆ 分科会報告・意見交換… 分科会の各グループ代表 (進行役) による報告・参加者による意見交換
10:50	◇ 総括 實吉 幹夫 一般財団法人日本私学教育研究所 私学経営専門委員長
11:00 ~11:30	◇ 昼食 (視察不参加者) * 視察A・Bコース参加者の昼食は視察途中
A11:10 ~17:00	◇ 学校視察 A (学校視察)・B (教育関連施設等視察) 2コース <バス利用。各視察時間1~1.5時間> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> A 学校視察コース ① 広陵高等学校 (共学校) …… 広島市安佐南区沼田町伴 4754 ② 修道中学校・高等学校 (男子校) …… 広島市中区南千田西町 8-1 11:10 ANA ホテル出発 11:30 オタフクコース (ウッドエッグ (資料館・工場) 見学 [昼食]) 13:40 広陵高等学校視察 (学校紹介、授業・施設設備見学等) 15:20 修道中学校・高等学校視察 (学校紹介、授業・施設設備見学等) 17:00 JR 広島駅到着後解散 </div>
B11:20 ~18:00	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> B 教育関連施設等視察コース ① 海上自衛隊第一術科学校 …… 江田島市江田島町国有無番地 ② 修道中学校・高等学校 (男子校) …… 広島市中区南千田西町 8-1 11:20 ANA ホテル出発~広島港 (宇品) ~<フェリー・昼食>~切串港 (江田島) 13:00 海上自衛隊第一術科学校見学 (案内人による集団見学) 切串港 (江田島) ~<フェリー>~広島港 (宇品) 16:15 修道中学校・高等学校視察 (学校紹介、施設設備見学等) 18:00 JR 広島駅到着後解散 </div>
	〈来賓・講師・主催者控室〉…3階「サクラ」

～ 平成 25 年 ～
創立 50 周年を迎えるにあたり
一般財団法人日本私学教育研究所はこころ新たに
各種研修会を通して
子ども達の未来を拓く私立学校の振興と
私学教員の育成を支えてまいります

今年の私学経営研修会は広島県・広島市において開催いたします。

研修会の開催を快諾して下さった
広島県の私立学校と関係者に対して心よりお礼申し上げます。

各地の私立中学高等学校の代表者たちが広島の地に集い
全国の私学人の現状と経験・情報を共有することによって
各地の私立学校をバックアップできれば幸いです。

とくに研修会のプログラムでは
広島県私立中学高等学校協会の全面的なご支援ご協力を得て
広島市内の私立学校および教育関連施設等の
2つの視察コースを用意しています。

全国の私学人が心を結んで私立学校の未来を拓く力を高めていくため
全国から多くの私立学校の先生方が
広島市にお運び下さるよう心よりお願い申し上げます。

一般財団法人日本私学教育研究所は
今年創立 50 周年を迎えます。
これを機に『私立学校のシンクタンク』として
一層皆様のお役に立つよう努力を重ねてまいります。

一般財団法人日本私学教育研究所
私学経営専門委員長 實吉 幹夫

平成25年度私学経営研修会 [広島県・広島市] 開催報告

～全国から私立中学高等学校理事長・校長ら163名が参集～

平成25年6月6日・7日の両日、広島市・ANAクラウンプラザホテル広島で開催した今年度私学経営研修会は、北海道から沖縄まで全国33都道府県から私立中学高校の理事長、校長ら私学のトップ・リーダー達163名が出席した。今次研修会は「**変革の時代を拓く私立学校**」を研究のねらいに、社会と教育の潮流を読み、私学の進路を多角的に探るべく研究協議を行った。

【開会式】

主催者を代表して吉田晋・一般財団法人日本私学教育研究所理事長は、「安倍政権発足後、教育再生の様々な流れの中で我々私学は今、何を期待しているのか。私学助成はもとより、日本の教育を良くするためには公私立の切磋が欠かせない。そのために私学が公立と同じ土俵に近づける努力をしてほしいと政権与党に要請している。私学助成が良くなることは子供達の教育が良くなることにつながる。常に子供達を中心に考え、私学は頑張っていく」と挨拶した。

広島県私学を代表して、黒瀬真一郎・広島県私立中学高等学校協会会長は、「この2日間、広島の地で全国の私学の先生方と日私教研の叡智を結集し、私学の起点を振りつつ今後をしっかりと展望して、子ども達が日本に生まれて良かった、私学で学んで良かったと将来思うことができるよう、人づくりと経営について考えて参りたい」と歓迎の辞を述べた。

広島県からは湯崎英彦知事が祝辞を披露、「建学の精神に基づき特色ある教育に積極的に取り組む私立学校が担う教育の重要性は論を俟たない。私学の皆様には新しい日本を切り拓く若者を育てて行くためにも我々と共に切磋琢磨してほしい。耐震化の問題等経営上様々な課題はあろうが、行政としても精一杯私学を支援していきたい」と述べた。

松井一實・広島市長は、挨拶で「私学の建学の精神は平和があってこそ生きる。平和への想いをこの地で研修することで実感し全国各私学へと持ち帰られたい。少子化で減る生徒を公私立がどの様に受け持っているのか、自らの特色を活かし経営と教育の在り方をしっかり考え、各地域で未来を背負う若者を育まれるよう期待している」と語った。



開会式で挨拶する
吉田晋・日私教研理事長



黒瀬真一郎
広島県私立中高協会長



湯崎英彦
広島県知事



松井一實
広島市長

【基調講演】

地元産業界を代表して全国的に著名なオタフクソース(株)・佐々木茂喜代表取締役社長が登壇、「『広島発全国へ』一経営指標の変遷」と題して、日本を取り巻くグローバル化が進む経営環境の中で、日本の良さである「三方よし」のバランスのとれた経営、社風・企業文化づくり、地域社会と顧客の笑顔を重視する企業トップとして、社員への思い、資格別階層別教育制度の工夫や広報重視の取組を紹介した。我が社が今あるのは創業者の人生訓に基づく企業理念に基づき時代に合った進路を判断した結果である。我が社のミッションは本業・実務の中で社会に貢献することで、日本や世界を取り巻く問題をテーマに本業で出来ることを考え継続していくことを我が社のビジョンと考え、家族や地域社会等世の団欒、コミュニケーションに必ず役立つと信じてお好み焼きの普及活動に努めていくと論じた。

【中央と開催県の情勢報告】

中央と開催県の情勢報告では、中高連から第7期中央教育審議会委員として積極的に私立中高校を代表して発言・要請する吉田晋会長ならびに實吉幹夫教育制度委員長が、「政権交代後の教育政策と私学情勢」「教育再生・制度改革のゆくえー私学の明日を展望する」と題して、教育再生に係る政府・自由民主党・文部科学省中央教育審議会等諸会議の動向と提言等急展開する教育制度改革の流れと最新情報について総論・各論を報告・解説した。続いて、開催県私立中学高等学校協会ならびに日私教研から現状と課題・取り組みについて報告が行われた。

講演

吉田会長は、「政権交代を巡る状況」「教育改革の現状と今後」を取り上げ、私学助成予算の現状、耐震支援の現状と議員連盟による新たな動き、高校就学支援金制度の所得制限導入等見直しの動向、政府・自民党の教育再生閣連会議の諸提言、高校教育改革、グローバル人材育成と英語教育改革に関連して国際バカロレア IB に日本語ディプロマ導入と IB 認定校計画、学校の ICT 教育等について最新状況を報告した。さらに、中教審に入る時に肝に銘じたことは、その教育改革が子供達にとって是か非かという視点である。子供達のことを一番に考え、そのために教育の振興・充実を図ることが肝要だ。教育に関わる仕組みも、子供達を画一的でない、個性・能力に応じた幅広い基準で捉え、それぞれにとって良い方向に導くことが、子供達が幸せな道を歩み、将来の国や社会の発展へとつながる。そのために最大限の努力を重ねていくと締め括った。

報告 I

實吉教育制度委員長は、安倍政権の経済政策に基づく教育制度改革提言に関連して学者が語った言葉として「そもそも教育は経済発展のためにあるわけではない」を紹介。吉田会長の総論を受けて、教育再生に係る諸会議、中教審、第 2 期教育振興基本計画、高大接続、高等学校教育、教育委員会制度、全国学力調査、学校法人会計基準、体罰問題、高校修学支援金等の私学にとっての喫緊の課題について説明した。そして、最近文科省は中高連に新たな施策の事前相談をするようになった。今回吉田会長が中教審メンバーに入ったことで、教育制度改革のルールを作る側に私学が入り、文科省の決定に従うだけの時代は終わった。これからは私学が日本の教育制度を作っていくという意気込みで吉田会長にエールを送りたい。我々中高連は中央に偏ることのないよう、地方の私学の意見・思いを反映させていきたい。地域代表の中高連役員をとおしぜひ意見等を寄せてほしいとまとめた。

報告 II

開催県からは、山中幸平・広島県私立中学高等学校協会副会長が、少子化の影響下で県私学の現状と公私立協議会、公私比率・生徒収容の問題点、県内各地域が抱える課題等についてデータに基づき報告した。広島県の私学助成生徒一人当たり単価は県単独補助継ぎ足しで全国 10 位前後に位置する。これは私学理事長を務める県議会議員の理解と議会等への働きかけのお陰である。少子化・過疎化で広島地区等都市部以外の私学の定員充足率はかなり低く今後が危惧される。県財政難を受けて県独自の補助金が近年は 3 割削減されて今に至る。私学の生徒収容は現行の公私比率 7:3 では経営上厳しく、県は財政難を嘆くよりも、公私比率を 6:4、更には 5:5 へと私立高校のシェアを上げれば上げる程、公立高校・県教委に係る公費削減ができるのみならず、削減分を私立高校生の学納金助成に回すことで私学生徒の保護者負担は相当軽減されるという二重の利点があると県等へ訴えているが、対応して貰えない。生徒収容では入試日の早い隣県私立高校への流出という問題もある。広島県は歴史の古い私学が多く、「私立学校振興助成法は広島県から」という自負もある。県内私学は色々なことを共有しながら県・公立に対して頑張っていきたい。

報告 III

中川武夫・日私教研所長は、報告 III 「私学の教育課題と教員の育成」と題して、私学が直面する幾多の教育課題を迅速に捉え、全国の私学向けに英語教育、IB、いじめ問題等に関する説明会・研修会を企画実施し、調査研究活動を展開していること、いじめ・体罰、被災地私学向け復興教育支援、学校評価調査研究等文部科学省委託事業への対応やホームページを活用した私学教職員採用情報案内等を取り上げ紹介した。



佐々木茂喜
オタフクソース社長



吉田晋
中高連会長



實吉幹夫
中高連教育制度委員長



山中幸平
広島県私立中高協会副会長



中川武夫
日私教研所長

パネル・ディスカッション

パネル・ディスカッションでは、研究のねらいをテーマに、「政権交代の教育への影響」「学力観」「教育の方向性」「今後の私学の役割」の 4 つの柱を立て、各人が問題を提起し、教育ジャーナリストの野原明コーディネーターがパネリストの山本千曲・(株)山豊社長、田原俊典・修道中学高校校長、鈴木康之・水戸女子高校理事長・校長から闊達な提言を導き出した。(※詳細は全私学新聞記事参照)



野原明コーディネーターとパネリスト(山本千曲氏、田原俊典氏、鈴木康之氏)



パネル・ディスカッションに聴き入る参加者

【教育懇談会】

長塚篤夫・日私教研教育制度委員長による主催者挨拶の後、河野行信・広島県環境県民部学事課課長が全国の私学人に歓迎の挨拶を行った。河野学事課長は、私学人の熱意あふれる報告等に触れて、終日研修会に参加され熱心に耳を傾けた。午後パネリストを務めた田原俊典・広島県私立中学高等学校協会副会長による乾杯の後、参加者は翌日意見交換会と同グループで卓を囲み、自己紹介に始まり、言葉を交わし交流を深め、時と共に打ち解けた様子が見られた。懇談会の締め括りとして、次期研修会開催県代表の名城政一郎・沖縄県私立中学高等学校協会副会長が挨拶し来年度研修会に向けて抱負を述べた。沖縄県からは4名が参加、来年度へとつながる意気込みの強さを感じられた。



長塚篤夫
日私教研教育制度委員長



河野行信
広島県学事課長



田原俊典
広島県私立中高協会副会長



名城政一郎
沖縄県私立中高協会副会長



翌日意見交換会に備え
各グループで懇談・交流

【意見交換会 (分科会・全体会)】

2日目の意見交換会は、分科会(グループ討議)と全体会の二部構成で進められた。はじめに日私教研役員等が務める世話役を軸に、①私学行政と経営、②学校経営とリーダーシップ、③学校改革と教員意識改革、④生徒募集・進路対策、⑤グローバル化対応教育、⑥学校危機管理対応の6つのテーマ別グループ討議でそれぞれの学校の現状と課題を報告した。学校や地域は異なっても抱える課題に共通点は多く、討議では夜の教育懇談会で打ちとけたメンバー同士がじっくりと本音で実状と問題点を語り合い、時間が過ぎるのを忘れて真摯に意見・情報を交わし経験・対応策を共有した。続く全体会では、世話役がグループ討議の概要を報告した。

- ①私学行政と経営(野原明世話役)・・・大阪府行政の現状・問題点(公私間転学制度)、補助金と私学経営、公私協議、公立高校授業料無償制・高等学校等就学支援金制度への所得制限導入の動きと学校事務負担・生徒保護者の収入等個人情報等の問題点、経営困難校の問題等が挙げられた。
- ②学校経営とリーダーシップ(長塚篤夫世話役)・・・学校経営では生徒募集が上手くいくことが全ての根幹であり、生徒募集中心に議論。学校の満足度が試されており、ここをしっかりと対応しないと生徒募集につながらない。広報活動は外向けだけでなく在校生・保護者。卒業生への情報発信すること、指導面での躰、地域の評判も大切。
- ③学校改革と教員の意識改革(松良千廣世話役)・・・公立学校・異業種出身の参加者から教員の保守性、視野の狭さが指摘された。若い教員が定着しない理由として企画・部活における先輩教員の圧力等があり、パワハラ・セクハラ等を含む校長への直訴システム化、教員の民主主義等への対策が必要、学校改革はスピードが肝心。
- ④生徒募集・進路指導(真城義麿世話役)・・・生徒募集に絞って協議。オープンスクール参加者集めの方策、イブニング説明会実施、生徒によるプレゼン・校内案内、在校生保護者によるカフェ運営で保護者同士が直接話す機会を設ける取組紹介。口コミや地域の中の信頼の重要性、地域立私学として地域を牽引し信用を高める必要性等。

⑤グローバル化対応教育（須藤勉世話役）…主流のグローバル化教育では、国際バカロレア IB 教育についてはディプロマ DP 実践校が実状と経済面の課題を、留学については都道府県補助制度もの紹介。今後 IB 教育を視野に入れ教育を進める学校は公私立とも増えるだろう。私学は各学校が発展のため創意工夫し頑張してほしい。

⑥学校の危機管理対応（中川武夫世話役）…グループ内の大学の地震専門研究者から地震対応について説明、参加者から提供された学園作成の危機対応マニュアルを基に、緊急時連絡網の双方向化、事件事故発生時に備えた模擬記者会見等に説明・検討を進めた。日私教研で何かの機会に危機管理対応を研修に活かしていきたい。

進行役の木内秀樹・私学経営専門委員は、「各学校が問題意識を強く持って何かを変えたい、変えて行くと思っている。私のグループでも皆そのような意見だった。今回分科会で知り合った全国の私学人とのネットワークを大事にして、今後は他の学校の改革情報を聞くなど情報・意見交換を続けてほしい」と述べ、意見交換会のまとめとした。



闊達なグループ討議で熱気あふれる意見交換会(分科会)



全体会（世話役からの報告）



實吉専門委員長による研修会総括

【研修会総括～閉会】

實吉幹夫・私学経営専門委員長(日私教研副理事長)は、参加者の協力により本研修会が滞りなく終了したことへの謝辞を述べ、10月の全国私学教育研究集会大阪大会私学経営部会、来年度私学経営研修会での再会を期して閉会した。

【学校視察】

午後は「オタフクソース(Wood Egg・工場)・広陵高校・修道中学高校」と「海上自衛隊第1術科学校・修道中学高校」の2コースで視察を実施した。広陵高等学校と修道中学校・高等学校では学校長等より学校紹介・説明を受け、授業・部活動に取り組む生徒と教員の活動と施設設備を視察した。参加者は爽やかな生徒と教職員に迎えられ、広大な敷地と立派な施設設備に感嘆の声が上がった。オタフクソースでは佐々木茂喜社長が直々に出迎え、お好み焼きの昼食に舌鼓を打ち、工場案内に至る迄、基調講演で披露されたおもてなしの精神と真心の伝わる視察となった。



広陵高等学校



修道中学校・高等学校



江田島市・海上自衛隊第1術科学校



オタフクソース (Wood Egg)

平成25年度私学経営研修会参加人数（都道府県別）

北海道	2	岐阜	3	山口	6
青森	2	静岡	7	香川	2
宮城	1	愛知	8	愛媛	1
福島	1	三重	1	高知	1
茨城	5	滋賀	1	福岡	10
栃木	2	京都	4	長崎	1
群馬	1	大阪	13	大分	3
埼玉	1	兵庫	6	宮崎	1
千葉	4	鳥取	2	沖縄	4
神奈川	4	島根	8	合計	
東京	30	岡山	1	33 都道府県	163名
長野	1	広島	26		

平成25年度私学経営研修会参加者アンケート

☆回答数/参加者数 64名/163名(回答率39.3%)

- | | |
|-------|---|
| ○大変好評 | … 基調講演、パネル・ディスカッション、教育懇談会、意見交換会、学校視察 |
| ○好評 | … 講演・報告Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 《内容》 |
| ○要検討 | … 講演・報告Ⅰ・Ⅲ 《資料・内容重複、時間配分》
教育懇談会・意見交換会 《会場・座席形式》 意見交換会 《時間不足》 |

～参加者から寄せられた声～

講演（最新中央情勢）

- 諸改革が子ども達にとって良いことか、良い方向なのか考える大切さを学んだ。
- 吉田会長の熱い想いがいつも感動的。内容も充実して有り難い。
- 中央情勢に関する詳細で豊富な資料提供で内容が良く分かり良かった。
- もっと時間があれば良かった。最新の私学情勢、方向性と課題を含め貴重な話だった。
- センター試験のスcoopに対する正確な情報が有難い。
- 特にIBの話に関心を持った。
- 資料頁数を逐一明示して話して貰えるとより分かりやすい。

基調講演（オタフクソース社長）

- 「グローバル化」が声高に言われる中、我々が見失いがちな大切な視点を指摘され、様々な気づきを得た。
- 企業人の講演は今後も取り入れてほしい。日本人の特性、社風づくり、ビジョンの立て方等学校経営に非常に役立つ。大変愉しく拝聴した。
- 実業人の考え方はいつも刺激的で新鮮だ。
- 私学経営も企業経営と同じだとわかった。
- 異業種でも経営の本質は同じで学ぶべき多くの内容があった。
- 価値基準を私学としてどこにおくべきか考えさせられた。
- 企業も社会に認められる努力を通して経営につなげている点が参考になった。学校での方法があるか考えてみたい。
- 時代の流れを読みながらも独自の経営観をしっかりと持つ素晴らしい経営者。学校経営、生徒指導にも生かせる。
- 企業の経営方針と私学の建学の精神に非常に共通点がある。継続してやり通す重要性。
- 企業の責任者の姿勢で会社の方向が変わっていくという話に学校運営に共通するものを感じた
- 柔軟な考え、様々な取組社員を大切にしている点は本校に導入したい。
- 効率性にこだわらず、社会に対してわが社のできることはという探求の姿勢に心洗われるものがあった。学校法人もまた効率性だけに縛られてはいけない。
- 商品を作るだけでなく普及と社会的使命を前面に出していく事に共感を覚えた。「企業は人間」—私学も同じ。
- 色々な試みに感嘆。努力を惜しまぬ取り組みに感服。
- 大変感銘を受けた。自らの歩みが文化や人間社会の在り様に迄つながることを意識し取り組まれることに深い敬意。
- 企業経営第一線で常勝のため社風作り社員を大事にして理念を浸透させることの大切さ、三方よしの理念を現代に当てはめ着実に企業経営の成果を上げていることを知った。
- 独自のビジョンを持った会社経営は参考になった。
- 社風重視の考え方が参考になる。

- オタフクソースに興味をもち、ファンになった。
- 右脳・左脳、マトリックスによるビジョン再考、組織活性化と人材育成など企業の具体的な取り組みが参考になった。
- 単に市場競争において販売戦略とるのではなく満足度を売る教育人材育成のポイント。
- 流行りの経営手法ではなく中規模企業として日本的なものをうまく生かして会社を發展させている。
- ポジティブ、人の和、三方よしの理念を現代に当てはめ、着実に企業経営の成果をあげている。
- モチベーション、インセンティブを持たせる事の重要性。
- アナログの手法を残す考え、利益追求しつつも地域、社員を第一に考えるやり方。

報告Ⅰ（中高連）

- 講演の内容を更に深化させた内容でとても良かった。今後の取り組みの参考になる。
- 限られた時間内で全体を網羅した概要と流れを理解できた。国の施策等広範囲に沢山の情報が得られた。
- 私学関係者がルールを作る側に回ったことの意義について語られて、今後重要な局面になってくるだろうと感じた。
- 役に立つ内容、貴重な資料に感謝。現場が右往左往することのないようしっかり捉え対応したい。
- 私学が取り組むべき課題が山盛りだった。
- 中央の動きが良くわかり報道の理解に役立つ。
- 多岐にわたる教育課題を明確に提起。
- 短時間でポイントが整理された話。
- 重要な資料は今後の学校運営に役立つ。
- 中央の動きに振り回されないようにしたい。
- 講演との内容重複があり、的を絞った方が興味を持ちやすい。もう少し中身の説明・解説があれば良かった。

報告Ⅱ（広島県私学）

- 地方の私学として広島県私学の苦悩と努力が良くわかった。
- 広島県私学全体の情勢が良くわかった。隣県との生徒収容（流出）問題も近畿圏と類似しており共感できた。
- 公私比率の問題は少子化の進む地方の私学には大きな問題で、同様の問題を抱える本県私学として悩みを共有できた。
- 広島においても公私間定員配分7対3が揺らいでいるとは意外だった。本県では同様の比率配分であるところ既に有名無実化し公立のやりたい放題だ。具体的資料と説明は本県の分析にも有用であり大変参考になる。
- 少子化の中で、さらに公私間の学校数、充足数の比率が激しい中で大変苦勞している現状が分かった。
- 地域性による特色を改めて考えさせられた。
- 行動力に敬服。
- 東京は恵まれている。
- 具体例がもっとあれば良い。

報告Ⅲ（日私教研）

- 動きが早い教育課題がタイムリーかつコンパクトにまとめられ理解しやすかった。的を射た報告だった。
- 研究所の研修に興味を持てた。もっと研究所を利用したい、その価値がある。
- 私学教員・経営者に対して「シンクタンク」として存在しようという立場に拍手。ホームページ等経営に活用したい。
- 益々役割が大きくなっている。期待は大きい。
- 意欲的で時宜を得た取組の様子が印象的。
- データ提供も行っていることがわかった。
- 教職員採用情報、各種研修案内など興味深く聞いた。歯切れの良い話でもっと聞きたかった。
- 私学の教育課題が具体的でわかりやすい。
- 学校評価の評価委員会が評議員会で良いとは全く知らなかった。
- 私学のシンクタンクとして頑張ってほしい。
- SSH研修会を開催してほしい。本校を含め私立SSH指定高校は全国にある為。
- もう少しテーマを絞った方が良い。

パネル・ディスカッション

- 大変有意義で示唆に富み最も充実した時間だった。
- 一番参考になる。他県各法人の生の状況がリアルに伝わり学ぶべきところが多い。
- 一方的な意見表明ではなく、ディスカッションになっていた。野原コーディネーターの進め方が大変良かった。
- 野原コーディネーターの熟知したリードがよい。現状の教育問題に対するコメントがわかりやすい。
- 結論の導き出せない大きなテーマを4名の先生方が一定程度深く掘り下げ、共に考える機会を貰った。
- パネリストの本音トーク、それぞれのリーダーシップを持った経営マネジメントがとても有意義だった。
- 各人の教育に関する哲学、理念がわかりとても有意義だった。教養の大切さを実感した。
- 大変愉しく有意義。内容豊富で素晴らしい。テンポがよい。
- 確固たる信念を持つ学校の話が参考になった。
- 私学の独自性と存在理念を踏まえて、企業と学校（男子校と女子校）の立場からパネリストとコーディネーターの客観性やバランスを含め分かりやすく、教育的視点も明確だった。

- パネリストの個性際立つ内容だった。
- 各パネリストの個性が發揮され楽しかった。田原校長の発言は輝いていた。
- 鈴木先生の温かなお人柄と復興への思いに感服。
- 両校長の見識の高さ、学力観を巡る発言は大変参考になる。「10代の限界体験からの成長」「学校が潰れるのは生徒減ではなく教職員がバラバラになった時」の発言は印象的。学校法人は在続する限り「志の旗」を降ろしてはならない。
- 企業主としての山本社長の意見が参考になった。
- 男子校、女子校で頑張っている学校が具体的にどの様な手段で生徒募集をしているか興味を持った。
- 私学のあり方について考えさせられた。
- 校内研修でこういう形式が取れば面白い。
- 時間的に「4つの柱」は消化不良。
- パネリストの見識が高い。多少抽象的で論点がまとめでくかったのではないか。
- 争点がぼやけていた。個人キャラクターに頼りすぎの感がある。
- パネリスト、コーディネーターを毎年同じ人が担当する傾向にあることは否めない。

教育懇談会

- 分科会毎に集まるのは大変良い。続けてほしい。
- 翌日の意見交換会の前段階としての同じテーブルでの会食は効果的。アイスプレイキング(話し合いや研修、ワークショップなどの冒頭などで、場が進むよう雰囲気作りをすること)的な要素もあり、計画的には成功。
- 意見交換会と同グループメンバー座席設定により打ち解け、意見交換は忌憚のないものとなった。
- 意見交換会に向けて良い交流の時を持ち、テーブル席で落ち着いて会食ができて良かった。
- アルコールが入ることで本音の部分で話ができて有意義だった。料理も良かった。
- 教育懇談会は聞き取りづらく、意見交換会につながらなかった。
- 自己紹介・意見交換会の準備が充分でできなかった。

意見交換会

- 各現場、地域、学校の本音の情報、話を聴き、共通の悩み・課題に苦労しながらも取り組んでいることに励まされた。
- 各校の生徒募集に関わる努力を知り大いに参考になった。学校所在地(地方・地域)毎に手法が違うことは配慮し取組みたい。
- 大変有意義で、示唆に富み、最も充実した時間だった。一番参考になる。
- 遠慮なく自校の問題点を披露し、対策・方策を提起しあったことは有意義。
- 学校改革の成功例・失敗例など率直な話が聞けて良い。
- 世話役の名リードとメンバーの積極的発言でいろいろ気付きがありよかった。
- もう少し時間がほしい位にあつという間であった。
- 時間が全く足りない。今後各校の方と連絡を取り続けたい。
- 午前中一杯などもう1時間長く出来れば良かった。リーダーシップについてより深く議論が出来ず残念。
- どの参加者の学校も話すことが沢山あり、参考になった。
- 各校の具体的な取り組みが参考になった。
- 本学園の置かれている状況が良くわかった。
- 実りある情報交換の時間で勉強になった。満足した。
- 学校危機管理のグループは、大学で地震学を研究された先生、自衛隊出身者、危機管理マニュアル具体例など大変参考になった。本校の取り組みに活かしたい。
- 大阪府の紹介事例に驚いた。
- 多くの意見や取組み報告され、テーマを絞り込めなかった。
- 今回研修で一番有益だったが、大会場で他のグループの話声で意見が非常に聞きづらいのが残念。次回改善を望む。
- もう少し小さいテーブルの方が話は聞こえやすい。周りのテーブルの話声で聞きづらい。少人数のグループが良い。

学校・教育施設等視察

- 伝統ある2校の視察で参考になることが多々あった。先生方の行き届いた対応に感謝したい。
- 2校とも圧倒された。充実した設備、活力ある生徒達。自分は自分の場所で頑張ろうと決意を新たにした。
- オタフクソースの経営理念が現場に活かされている。学校視察は大いに参考になった。敷地面では羨ましい限り。
- 広陵高校のメディアセンターは大学のように素晴らしかった。
- 広陵高校は都市部から郡部に移転しかつ県立高校6校新設の中でよく現在の位置を確保している。視察して良かった。
- 修道中学高校では歴史と自由な雰囲気を味わえた。生徒達も爽やかだった。
- 立派過ぎて参考にならない程だ。普段見られないので感激した。
- 視察に感動、企画に感謝。
- 有益だった。江田島・海自術科学校も修道中学高校も大変参考になった。
- 限られた時間の中で施設見学と学校説明の両方は厳しい。もっと学校の説明を聞きたかった。
- 企業訪問があったので学校訪問は1校で充分。
- 2校とも施設が素晴らしかったが、本校の抱える実情には合わない。

その他(全体)

- タフなスケジュールだったが非常に参考になった。
- プログラムがやや盛り沢山で3連続の報告はきつかった。
- 講演と報告Iの内容が重複しており時間を集約しテーマについて詳細に話を聞きたかった。質疑応答があっても良い。

《来年度以降の研修会への要望等》

- パネル・ディスカッション、懇談会、分科会等改良されて大変良くなっており、継続を望む。来年沖縄に期待する。
- 全高長総会と比べ今回の方が遙かに研修の意味と意義が見出せた。校長・理事長の意気込み・熱意に私学の優位を痛感した。参加してとても良かった。
- 実業界の方の話を沢山聞けたら良い、可能な限り毎年研修会に出席したい。
- 最新中央情勢は継続してほしい。
- 学校視察は沖縄でも実施してほしい。
- 必ず学校視察を入れてくれれば参加する。
- 視察はタイプの違う2校を望む。
- 沖縄の現実を理解するに相応しいプログラムを入れるなど、沖縄修学旅行の実施校として参考となる企画を期待する。
- 日本文化の源流をもっと沖縄諸島経由の重要性を認識させる機会にしてほしい。
- テーマごとの分科会があればどうか。
- テーマを絞り掘り下げた議論ができるプログラム。

《今後研修会で取り上げてほしいテーマ等》

- 学校改革の成功・失敗事例発表
- 少子化で悩む地域の生徒募集
- 少子化進行の中学校の絶対数は減少化必至か
- 教員のモチベーションを上げる実践
- グローバル教育、英語教育、TOEFL iBT
- センター試験廃止を含む大学入試・高大接続の動向
- LINE、Twitter、携帯機器への学校対応
- 公立高校授業料無償制に法的問題はないのか
- 専任教員比率と人件費バランス
- 労働契約法改正に伴う常勤非常勤講師の採用・更新のあり方、組合対策

《その他日私教研に望むこと》

- 日私教研の活動にも拘わらず深刻な私学経営状況を私学人が知り得ておらず残念。存在を知らしめる広報への注力を。

《参加目的》 記入例

- 改革進化に努め続けて疲れて諦めかけた時、研修会で各校での皆の頑張りを改めて知る事でもう一度やるぞと思う為
- 他校の理事長・校長の考え方、対応振りが参考になる
- ICT、IBなど教育改革の方向性、他の私学の行方を知る
- 国際交流に積極的に取り組む学校との情報交換
- 若い教師の教育力向上と帰属意識向上を図る具体的手立てを探る為
- 中堅教員の育成
- 年齢・給与の高い教員を抱える中で学校改革・教員意識改革を行う為
- 成功・実績を上げている学校の事例を聞く為
- 生徒募集につながるアイデア、先進事例収集

【次回研修会のお知らせ】
～ 平成26年度私学経営研修会は
沖縄県・那覇市で 平成26年6月5日(木)・6日(金)
に開催します ～

教育改革動向を視野に入れ 今後の進路を研究・協議

日私 教研 私立経営研修会を広島で開催

グローバル化対応など課題に “地域と信頼関係も重要”

一般財団法人日本私立教育研究所（吉田晋理理事長、中川武夫所長）は、六月六・七の二日間、広島市内のホテル等を会場に「私立経営研修会」を開催した。研修会では、全国から参加した私立中・高等学校の理事長・校長等百六十一人が、急ピッチで進む教育改革の最新情勢、私学への影響等について学んだ上で、企業経営者の講演や私学人らによるパネルディスカッション、テーマ別グループ討議、私立学校視察等を通じて今後、各私学の歩むべき方向性を探求した。



広島市内のホテル等を会場に開かれた私立経営研修会

今年の研修会の研究の知事が出席、私学での新 同じ士慶を大前提にして 告、また、文部科学省がねらいは、「変革の時代」しい日本を切り拓く若者 特色を分かち合い、補完 国際バカロレア（IB）を拓く私立学校「社会との育成に大きな期待感を 関係をもつ構築するかをのディプロマ資格（世界教育の潮流を読み、私学 表明、また松井一貫・広 協議し、経営の在り方、的に通用する大学入学資の進路を探る」。開会 島市長は、就学人口が減 教育の在り方を考え、未 格」を得られるプログラム式には湯崎英彦・広島県 少する中で公私立学校が 来を背負う若者を育てて ムの科目の一部を日本語

ほしいと語った。でも実施可能とする、日開会式後には、日本私 本語DP」を開発・導入立中学高等学校連合会のし、IB認定校等を現在吉田晋会長（日私教研理の十六校から平成三十年 事長）が一政権交代後の までに二百校に拡大する教育政策と私学情勢」と計画で、今年度、その開題して講演を行い、教育 発経費として五千八百万再生や学校施設の耐震化 円の予算を計上したこでは国公立校と同等の財と、IB認定を目標する学政支援の必要性や、唐突 校の協議会が既に立ち上り、早ければ今年度の十 月には最初の候補校申請取り上げ、十分実証され が行われる見通したが、ない中で様々な課題が浮 私立学校にほとんど周知 上げていることを報 されていない、とし、改

顧問・名譽校長がコーデ ーの深さを具現化してイネーターを務めた。こ いく必要性などが指摘さ の中では、勉強にしろス れた。二日目のグループ ポーツにしろ限界体験が 討議では、私立学校は、生徒のモチベーションに 口コミや地域の信頼感をつながること、自分・相 大切に、地域の抱える手・社会の三方よしの精 課題に取り組むことで受 神が大切なこと、現実に 験生の専願率が上昇して 学校差があるにもかかわらず、社会のニーズを後 らず、同じ改革をしても 追いつけず、新しい価値観 何もできないこと、グロ を提示、日本、地域を引 曲・株式会社山豊代表取 ーバル化の社会は競争と 張っていく気概が大事 選抜の世界で人間存在の なこと、また、IBのD 土台を揺るがし、個人化 Pを取得しても経済的理 ケースがあるものの、今 後、IB教育を視野に入 摘された。

